

令和5年度第4回宮城県地域医療構想調整会議（仙南区域）意見概要

宮城県保健福祉部医療政策課

【議事（1）】について（質問含む）

No.	委員（敬称略）	所属	意見・質問の別	御意見・御質問	回答
7	大桐 規子	宮城県看護協会 仙南支部 理事	質問	回復期126床のうち、地域包括ケア病棟48床を除く病床で回復期リハビリテーション病棟とする方向性がありますでしょうか。	（白石市の回答） 令和7年度に予定する回復期126床については、以下の想定をしております。 ・48床 現在の地域包括ケア病棟で、令和7年度も継続予定です。 ・51床 現在の回復期リハビリテーション病棟で、令和7年度も継続予定です。更なる回復期機能の充実を図るため、リハビリテーションのセラピスト（PT/OT/ST）の採用の強化を行っています。 ・27床 現在休棟中の病棟の一部で、回復期機能を有する病棟として再開を検討しており、具体的な医療機能の内容までは決まっておりません。
13	福島 浩平	大泉記念病院 院長	質問	以前、「慢性期へ」とされていた27床分を回復期に上乗せして126床とされている様です。従前より回復期の充実が期待されているところですが、現在回復期病床の稼働状況はいかがでしょうか。	（白石市の回答） 回復期病床の令和5年12月時点の稼働状況については、以下のとおりです。 ・地域包括ケア病棟 82% ・回復期リハビリテーション病棟 85%
14	早坂 弘人	仙南病院 院長	意見	・透析医療に関しては、みやぎ県南中核病院が透析導入に特化している現状を考慮すれば、回復期病床で受け入れることが地域包括ケアシステムの一翼を担うこととなるため、賛成する。 ・透析以外の医療に関しても、ポストアキュート、サブアキュートを担う機能として回復期病床を増床することにより、急性期病院としてのみやぎ県南中核病院における患者受け入れ困難状態の改善につながることが期待される。	各医療機関の機能や役割が、今後とも地域のニーズに合うよう、地域医療構想調整会議や病院長などによる意見交換会等を通じて議論を進めてまいります。
16	曾根 正樹	全国健康保険協会宮城支部 業務部長	意見	急性期病床の20床を増加することについては周産期医療の充実を図るためのものと理解はできるものの、仙南区域において急性期病床が過剰で、回復期病床が不足しているという現状を踏まえると、引き続き急性期病床を調整するための議論を継続してほしい。	公立刈田総合病院において、周産期医療として急性期病床を活用することについては、現時点では常勤医の確保などの具体的な診療体制が未定であることから、引き続き情報収集に努め、診療体制に一定の目途がついた際には、調整会議において協議してまいります。